

本資料は 2020 年 4 月 23 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

2020 年第 1 四半期の業績

市場が混乱する中でも底堅い業績

2020 年第 1 四半期のハイライト：

- 税引前利益は前年同期比 13% 増の 12 億スイス・フランとなりました。
- 純利益は前年同期比 75% 増の 13 億スイス・フランとなりました。
- 純収益は前年同期比 7% 増の 58 億スイス・フランとなりました。
- 有形株主資本利益率（RoTE）は前四半期の 8.6% から 13.1% に上昇しました。
- CET1 比率は前四半期末の 12.7% から 12.1% に低下しました。ティア 1 レバレッジ比率は前四半期末の 5.5% から 5.8%¹ に上昇しました。
- 当四半期末の平均流動性カバレッジ比率（LCR）は 182% でした。

クレディ・スイス・グループ AG の最高経営責任者（CEO）、トーマス・ゴットシュタインは次のように述べています。

「グループ CEO として迎えた最初の四半期に、我々は新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的な感染拡大によって深刻な影響を受け、極めて困難な環境に直面しました。スイス・ユニバーサル・バンク（SUB）部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント（IWM）部門、アジア太平洋（APAC）部門およびグローバル・マーケッツ（GM）部門の牽引によって底堅い業績がもたらされた一方、10 億スイス・フランを超える多額の引当金を繰り入れました。ウェルス・マネジメントを中心とする当グループのビジネスモデルの底堅さが改めて確認され、ボラティリティの高い時期においてインベストメント・バンキングの能力をお客様のために生かすことができました。「起業家のための金融機関」としてのグローバルなポジションに沿いつつ、国内市場の重要性を強調する中で、当グループはスイス政府の後押しを受け、スイスの中小企業（SME）向けつなぎ融資のソリューションを開発するうえで積極的な役割を果たしました。さらに、90% を超える従業員に在宅勤務を認め、学校が閉校されている場合には有給の家族休暇を保証することにより世界各地の従業員への変わらぬサポートを維持し、世界各地で社会とのつながりを保ちました。当グループの強力な資本基盤と流動性基盤により、新型コロナウイルスによる不安定な状態が持続するとみられる向こう数四半期においても、お客様、従業員および社会を支援する上で十分な体制にあると考えています。」

クレディ・スイス・グループ (単位：百万スイス・フラン)	2020年第1四 半期	2019年第4四 半期	2019年第1四 半期	2019年第1 四半期との 比較
純収益	5,776	6,190	5,387	7%
貸倒引当金	568	146	81	-
営業費用合計	4,007	4,830	4,244	(6)%
税引前利益	1,201	1,214	1,062	13%
株主帰属純利益	1,314	852	749	75%
有形株主資本利益率	13.1%	8.6%	7.8%	6.3p.p.

概要

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大と、その結果生じた変動の激しい市場環境にもかかわらず、この極めて困難な 2020 年第 1 四半期における収益性は 2019 年第 1 四半期から向上しており、税引前利益は前年同期比 13% 増の 12 億スイス・フランとなりました。これにはインストラボのファンド・プラットフォームのオールファンズ・グループへの譲渡にかかる第 2 回および最終回のクロージングによる利益が含まれます。インストラボの譲渡益と主要な訴訟引当金を除くと、税引前利益は前年同期比 11% 減の 9 億 5,100 万スイス・フランでした。純利益は前年同期比 75% 増の 13 億スイス・フランで、四半期としては過去 5 年間で最高の業績となりました。これは、税率がマイナスとなったことによるものです²。純収益は前年同期比 7% 増加の 58 億スイス・フランとなりました。インストラボの譲渡益を除くと、純収益は 2% の増加でした。報酬費用および報酬以外の費用にわたるコスト抑制に引き続き注力した結果、2020 年第 1 四半期の営業費用合計は前年同期比 6% 減の 40 億スイス・フランとなり、営業レバレッジは 14 四半期連続のプラスとなりました。第 1 四半期の RoTE は、インストラボの譲渡益とマイナス税率の恩恵により 13.1% となりました。2020 年通年の修正後予想税率 20%~25% に基づくと、RoTE は 9%~9.5% となります。

2020 年第 1 四半期の業績は、当グループのプライベート・バンキング・フランチャイズが強力に寄与したことで下支えされており、インストラボの譲渡益を除いた純収益は前年同期比で 9% 増加しました。市場が下落する中、プライベート・バンキング・フランチャイズは、トランザクション・ベースの収益が前年同期比 31% 増と堅調に増加したことに加えて、経常手数料収益も安定的に確保できた一方、純利息収益は 6% 増加しました。2020 年第 1 四半期におけるインベストメント・バンキング全体³の純収益は米ドルベースで前年同期比 23% 増加しました。これはポートフォリオの分散化を図ったことによるもので、債券の販売およびトレーディング⁴純収益は 26% 増加し、株式の販売およびトレーディング⁴純収益は 24% 増加しました。厳しい経済環境と原油価格への継続的な圧力を反映させるために、当グループでは 2020 年第 1 四半期に 10 億スイス・フラン超の引当金を繰り入れました。

2020 年第 1 四半期の当グループの全事業における新規純資産は 58 億スイス・フランで、内訳はスイス・ユニバーサル・バンク (SUB) 部門が 6 億スイス・フラン、インターナショナル・ウェルス・マネジメント (IWM) 部門が 38 億スイス・フラン、アジア太平洋 (APAC) 部門が 30 億スイス・フランでした。一方、運用資産は、市場と外国為替関連の動きが逆風となったことから、前四半期比で 0.1 兆スイス・フラン減少して 1.4 兆スイス・フランとなりました。

2020 年第 1 四半期末の当グループの資本状況は引き続き堅調で、CET1 比率は前四半期末の 12.7% に対して 12.1% でした。これは、主に企業向け融資の貸付実行と、当四半期後半における市場ボラティリティの上昇によるリスク加重資産の増加を反映したものです。当グループのティア 1 レバレッジ比率は、前四半期末の 5.5% から 5.8% に上昇しました。これは、スイス金融市場監督機構 (FINMA) が、一時的な措置として、レバレッジ比率の算出の際に中央銀行の準備預金を含めずに算出することを、スイスの銀行に認める決定を下したことによるものです⁵。当グループは、国際的な銀行グループの中でも流動性カバレッジ比率 (LCR) が最も高い一社に数えられており、第 1 四半期末現在の平均 LCR は 182% でした。

インベストメント・バンキングの強固な能力を備えた、業界をリードするグローバル・ウェルス・マネージャーとしての戦略の一環として、当グループは 2020 年 4 月 17 日、中国証券監督管理委員会から、証券合併事業であるクレディ・スイス・ファウンダー・セキュリティーズ・リミテッドの過半数株主となる認可を受けたことを発表しました。これは、当行の中国戦略において大きな意義のある節目となります。

財務的に健全であるにもかかわらず、取締役会は、新型コロナウイルスの世界的感染拡大を勘案し、また FINMA からの要請に応え、2020 年 4 月 30 日の年次株主総会における配当案の改定を決定しました。改定後のアプローチの下、取締役会は年次総会で当初案の半分の配当を提案し、市場環境や経済環境に応じ、2020 年秋に臨時株主総会を招集し 2019 年下半期の配当を提案する意向です。2020 年の自社株買いプログラムにおいて、当初予定されていた自社株買いは完了しており、このプログラムで 3 億 2,500 万スイス・フラン⁶を買い戻していることから、世界的感染拡大の持続の影響を再評価する時間を得るために、さらなる自社株買いは 2020 年第 3 四半期まで保留することとしました。この改定後のアプローチは、新型コロナウイルスの世界的感染拡大による難局に直面する中で、資本の保全を図るための慎重かつ理性的なステップだと考えています。

新型コロナウイルス (COVID-19)

こうした困難な環境の下、クレディ・スイスは引き続きお客様に寄り添い、前例のない挑戦を通してサポートを提供しています。当グループは当初より、スイス連邦財務省、スイス国立銀行、FINMA およびスイス銀行協会との協調により、スイス企業向けの総額 200 億スイス・フランのつなぎ融資ソリューションの開発において、積極的な役割を果たすことができました。このソリューションは 2020 年 3 月 25 日に発表され、その後 400 億スイス・フランに増額されました。これまでのところ⁷、クレディ・スイスはこのプログラムの下で約 14,000 件、総額 24 億スイス・フランを融資しました。このプログラムの立ち上げ以降の当グループの多大な貢献は、当グループのスイス国内市場へのコミットメントと、「起業家のための金融機関」としての立場の証となるものです。

さらに、当グループは早い段階から、業務において継続的なサービスを提供する一方で、新型コロナウイルス感染拡大の防止にかかわる緊急対応措置を世界的に導入してきました。当グループは確固たる事業継続管理能力を駆使し、チームの安全を確保しつつ業務運営を守るために必要と考えられる施策をとってきました。さらに、世界的感染拡大という難局の克服に向けた従業員のための様々な支援措置を講じてきました。こうした措置には、在宅勤務、交代勤務による出社人数の制限に加え、学校が閉鎖されている全ての市場において、在宅勤務ができず子供やその他の家族の介助が必要な従業員への有給家族休暇の支給が含まれます。

クレディ・スイスが業務を営む地域社会への貢献を図るため、当グループでは使途を寄付者が指定する全行規模の寄付マッチング・プログラムを設立しました。これは、従業員に慈善事業への寄付を推奨する目的で設立されたものです。さらに、業務執行役員会のメンバーは、このマッチング・プログラムの一環として 6 カ月分の基本給の 20% 以上を寄付することを確約しています。取締役会の会長も同程度の寄付を行います。

見通し

2020年第1四半期の業績は、事業の底堅さを反映し堅調なパフォーマンスを示す一方で、10億スイス・フラン超の引当金を繰り入れました。しかしながら、新型コロナウイルス危機の経済に対する悪影響の規模は依然評価が難しく、向こう数四半期にさらなる引当や減損も見込まれることも考えなくてはなりません。特に、スイス国外のコーポレート・バンキングその他の融資に加え、アセット・マネジメントにおける投資について注意が必要です。さらに、アドバイザー手数料や引受手数料の回収は、少なくとも、新型コロナウイルスの世界的感染拡大が収まり、世界経済が回復し始めるまでの短期的な期間においては、限定的にとどまるとみられることにも注意しなければなりません。しかしながら、クレディ・スイスはこの危機に際して、多くの重要な利点を持っています。第一に、当グループは歴史的にみて貸倒損失の発生が少ないスイス国内市場で、収益性が高く底堅い業務運営を行ってきました。第二に、安定的なプライベート・バンキング・フランチャイズを有しており、これが当グループの収益と税引前利益に大きく寄与しています。第三に、当グループは2015年から2018年のリストラクチャリング・プログラムでコストを大幅に削減し、リスクのエクスポージャーを縮小してきました。縮小したエクスポージャーとしては、石油・ガスやレバレッジド・ファイナンスが挙げられます。第四に、当グループは国際的な銀行グループの中でもLCRが最も高い一社に数えられており、資本の状態は健全です。当グループはお客様に引き続きサービスを提供する用意が十分に出来ており、この危機の中でも底堅い財務業績を維持できると考えています。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版(要旨)です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

1. レバレッジ・エクスポージャーは、スイス金融市場監査機構(FINMA)の許可に従い、2020年第2四半期および第4四半期に支払いを予定している配当調整後の、中央銀行預け金880億スイス・フランを控除しております。
2. マイナスの税率には、税務上の利息の損金算入範囲の拡大と、米国税源浸食濫用防止税(US BEAT)の以前の見積もりの修正が含まれます。
3. グローバル・マーケッツ(GM)部門、インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケッツ(IBCМ)部門、アジア大西洋(APAC)部門のマーケッツ事業、APAC部門のアドバイザー、引受及び融資の純収益、ならびにスイス・ユニバーサル・バンク(SUB)部門のコーポレート&インスティテューショナル・バンキング(C&IC)事業におけるM&A、DCMおよびECM収益が含まれます。
4. グローバル・マーケッツ部門およびAPAC部門のマーケッツ事業を含みます。
5. 中央銀行預け金を含めると、2020年第1四半期のティア1レバレッジ比率は5.3%となります。
6. 2020年3月13日まで。
7. 2020年4月21日現在。

*2020年第1四半期には、インベストラボのファンド・プラットフォームのオールファンズ・グループへの譲渡に関連する2億6,800万スイス・フランが含まれます。計上の内訳は、スイス・ユニバーサル・バンク(SUB)部門のコーポレート&インスティテューショナル・バンキング(C&IC)事業(2,500万スイス・フラン)、インターナショナル・ウェルス・マネジメント(IWM)部門のプライベート・バンキング(PB)事業(1,500万スイス・フラン)、IWM部門のアセット・マネジメント(AM)事業(2億300万スイス・フラン)およびアジア太平洋(APAC)部門のウェルス・マネジメント&コネクテッド(WM&C)事業内のPB事業(2,500万スイス・フラン)です。主要な訴訟引当金は、2020年第1四半期については1,800万スイス・フラン、2019年第1四半期については600万スイス・フランでした。当グループの報告された業績に含まれる項目を除外した業績は、非GAAPの財務指標です。